

学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 歯学部

氏名: 准教授・平間雅博
教授・西谷佳浩
准教授・犬童寛子
准教授・三浦裕仁

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ
研修先 (大学・国・都市名)	慶熙大学校(韓国・ソウル) 香港大学(中国・香港) 高雄医学大学(台湾・高雄)
研修期間	慶熙大学校プログラム: 令和4年9月19日～令和4年9月23日 香港大学プログラム: 令和5年2月27日～令和5年3月10日 高雄医学大学プログラム: 令和5年3月3日～令和5年3月10日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>目的: グローバル、またグローバルに活躍できる国際的な視野・考え方を持つ歯科医療人の育成を目的とする。 概要: 鹿児島大学の「進取の精神」に基づき、学術交流協定校に歯学部生を派遣する海外歯科研修プログラムを2016年度に創設した。現在、各学年の学習進歩に合わせて、海外歯科研修プログラムⅢ(3年次用)とⅣ(4年次用)、Ⅴ(5年次用)を設定しが各学年の学習進捗に合わせて連続的に行われている。 本プログラムは、歯学部の教育目標の一つである「国際社会においても卓越した貢献をなす歯科医師および歯科医学教育者・研究者の育成」と歯科医学教育のコアカリキュラム「歯科医学・医療・科学技術の進歩と社会の変化やワークバランスに留意して、歯科医師としてのキャリアを継続させる生涯学習者としての能力を身につける」に対応する。</p> <p>このプログラムを通し、学生は学術交流協定校[香港大学(中国)、高雄医学大学(台湾)、慶熙大学校(韓国)]の学生、教員と英語または現地語で交流する。文化や宗教の異なる価値観に接したり、社会システム、特に歯科医療システムの違いを学習して、日本国内にとどまっていたのでは体験できないダイバーシティを理解する。また、歯科に関わる問題の国際的な違いを理解し、従来より視野の広い歯科医師を育成する。</p>	
<p>〔研修の成果〕 * 事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>事前学習として、研修地に関し事前に勉強し、自己紹介や鹿児島大学について説明できるように自己学習を行った。学生たちの準備していた語学学習(会話)は現地の授業への参加時や病院見学时など役にたち、事前学習の成果を見ることができた。また、現地渡航前にZoomにて現地教員たちと面会し、研修中のスケジュールの問題や不安を取り除くことができ、スムーズに安心して現地研修ができた。また、研修地では、初めのうちは日本語から英語に翻訳するような会話だったが、最後の方では翻訳せずに英会話ができるような学生がでたり、現地の学生と本学学生が伝えようとする気持ちと受け取ろうとする姿勢があれば、交流できることを体験出来たりした学生も出てきて、異文化や教育システムの違いを見出すために積極的に現地の学生や教員とDiscussionもできたようである。各大学(慶熙大学校、香港大学、高雄医学大学)での授業では鹿児島大学よりも早い段階での臨床実習を行っていることを知ったり、AIやCAD/CAM、デジタルスキャナーを応用した治療などCutting edgeの授業を受けたりし、鹿児島大学では学ぶことができない知識も得ることができた。</p> <p>事後学習では、各大学毎に研修内容や研修前後の学生自身の変化などをプレゼンテーションするビデオを10-20分程度にまとめ来年度の研修発表会に向けて準備している。まとめの中では、授業や実習だけから得るものではなく、空港への迎えに来てもらったり、見返りを求めない親切心などに触れ、人間的にも成長したようである。現地でのダイバーシティを体験し、外国人とのコミュニケーションを体験したりし、コロナ後のグローバル化が加速していくうえで、これまで躊躇していた国際的貢献ができる人材育成や、グローバルな観点を持った地域貢献できる人材育成に成果を感じる。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>歯学部の授業カリキュラムにFlexibilityがないため、どうしても8、9月または3月のみの現地派遣となってしまう。現在、本校の教員とすべての協定校の教員間では良好かつ信頼したコミュニケーションがとられている。しかし、学生たちはまだまだ現地派遣前のコミュニケーションが足りないように思う。鹿児島大学の学生がおとなしく、オンラインでの研修でも、現地校のホストの学生より積極性が乏しいことがある。しかし現地研修から帰ってくるとやはり、積極性が増し、自分の積極性をもっと出したいとの感想を述べる人が多い。より積極的に現地の異文化の理解が渡航前に進めることにより、現地ですらに大きく、深く多様性を理解するのではないかと思う。派遣前の研修は通常の授業とのバランスをとることが必要ではあるが、オンライン事前研修をより充実させたり、何らかの新たな方法を取り、現地での異文化やシステムの違いをより深く認識させ、現地での研修をより充実させることで、帰国後にはグローバル化する地域に貢献できる人材育成に期待する。</p>	